想い出の座間
生活のこよみと人生の儀礼編

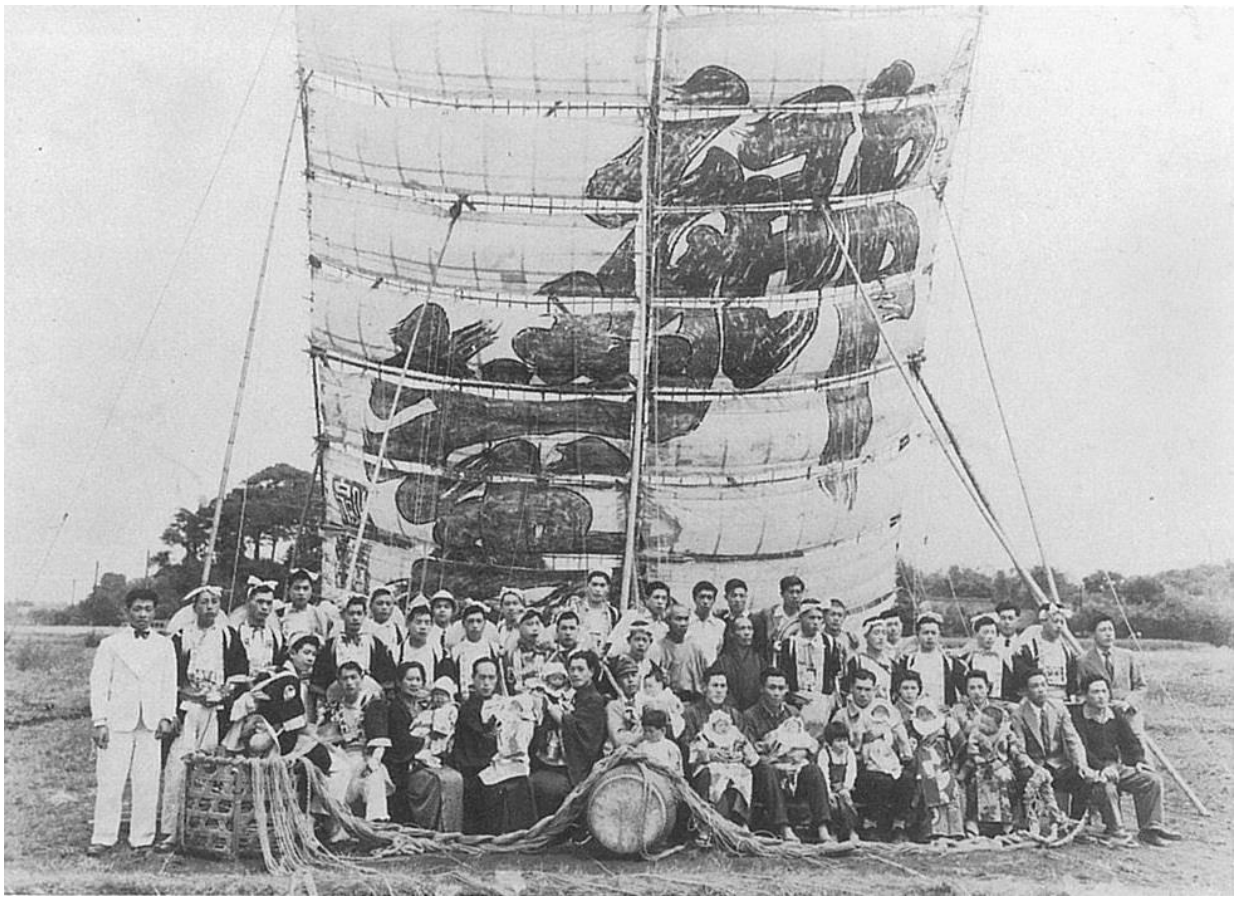
座間で写真が一般的になったのは戦後に入ってからです。それ以前は写真に接する機会はごく一部の人に限られており、従って人物写真が多く、風景や出来事を撮ったものはごく少ないのですが、可能な限りアルバムの中からひろい出して編集したのが昭和61年(1986）3月に発行された「目で見る座間」です。

この「想い出の座間」は、書籍の「目で見る座間」をホームページに忠実に反映することを基本にしております。

今回は、前回の相模川編に続き、「生活のこよみと人生の儀礼」にまつわるコンテンツを紹介させていただきます。

内容は、正月の行事、春の行事、相模の大凧、夏の行事、秋冬の行事、人の成長と儀礼、結婚に関する写真とコメントになります。

生活のこよみと人生の儀礼



今日、急速な都市化が進み、大切な文化財や多くの歴史的伝統、風俗が失われつつある。ここでは、昔の座間ではどのような催し物が行われ、人々はどう楽しんできたのか。
また、日常の生活との関連はどうだったのか、などを拾い出してみた。

座間上宿の大凧。
前列に地区の初節句の赤ん坊が並んでいる。
昭和26年。

出輿

鈴鹿明神祭礼の一コマ。御輿はさし上げられて神社を出る。まことに壮観である。昭和35年。

正月の行事

お飾り

お飾りを作るにはその年の稲藁で比較的丈の長い青味を帯びたものを使う。また、一夜飾りはするものではないと言われ、だいたい30日に飾る。

写真は**正月の神棚**、注連縄（しめなわ）と呼ばれ、家によって多少形がちがう。

路傍の神様へのお飾り

物置小屋のお飾り

　このお飾りは "ごぼうじめ"と呼ばれ、屋敷神、土蔵、物置、灰屋、便所、近所の道祖神塔など自分の家に関係する所に上げて飾る。

初詣

場所は座間河原宿の大神宮境内。

この地区では、元日に一家の主人が集まって初詣をし、その後、集会所でお年始の挨拶を行う。

お正月の子供たち

　お正月がくると、新しいゲタをかってもらう
うしろに門松も見える。大正10年ごろ。

カルタとり

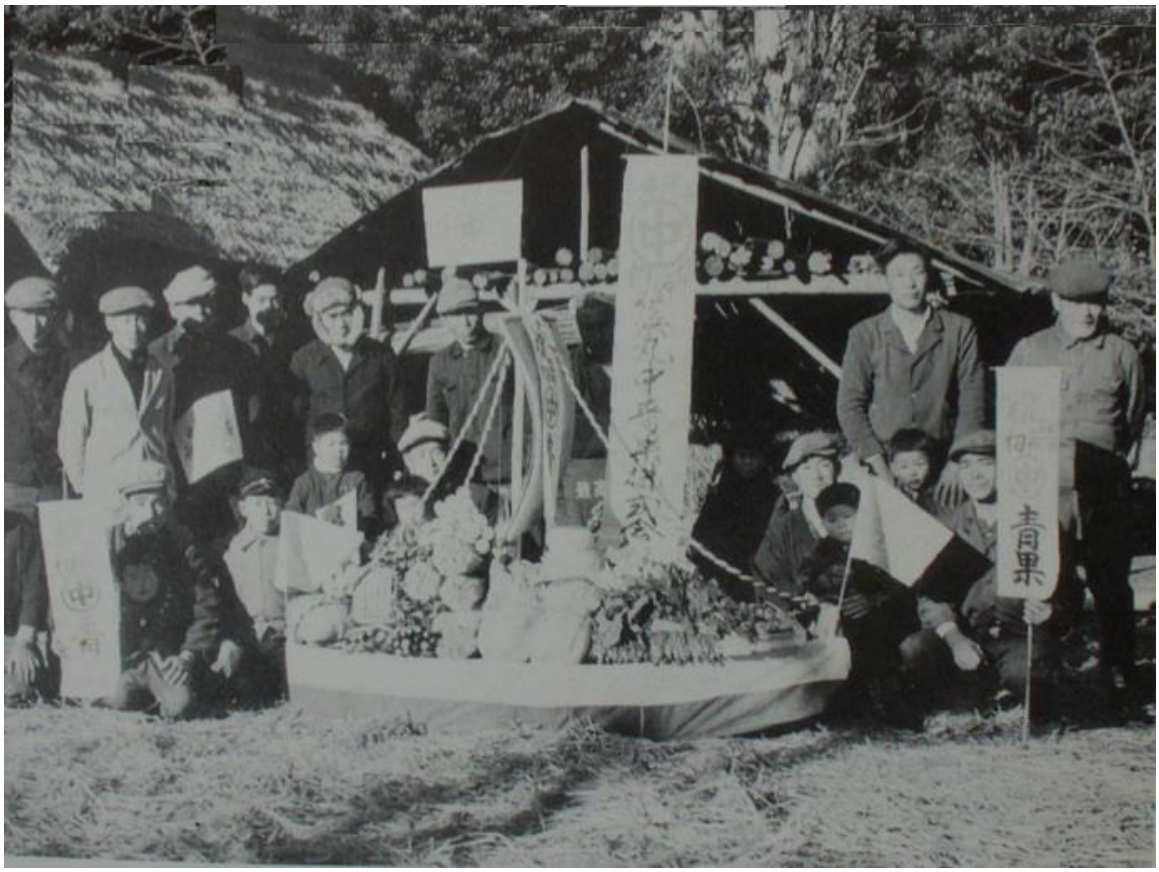
お正月の子供たちの室内での遊びはカルタ取りやスゴロクなどであった。昭和5年ごろ。

獅子舞

正月になると、大神楽の獅子舞が家々をまわって厄払いを行った。

うないぞめ

　田の神に上げたお飾り。豊作を祈って柏手を打ち、形だけ耕した。



初荷

　2日は仕事始めの日で、商売もこの日に始まる。この日に運ぶ荷を初荷といい、小幟や小旗を立てて景気をつけた。

メーダマ(繭玉)

　13日に15日の小正月用に餅をつくが、この日市域では米の団子を作り、枝にさして米を入れた斗桝や石臼に立て座敷に飾った。写真は略された形であるが、なお斗桝を用いている。昭和51年座間上宿。

道祖神碑の前に納められたお飾り

座間の中河原。

セートバレー

　道祖神払=サイトバライがなまったもので、地方によってはサギチョウ・ドンドヤキなどと呼ばれ、子供たちが行う火祭りである。

オカリヤ作り

　道祖神に納められた、煤払いに使った竹や神事に関して古くなったもの、門松やお飾りなどを用いて道祖神のオカリヤ(お仮屋)を作る。座間河原宿。昭和51年。

団子焼き

　昔は14日の夕方に行われていたようだが、栗原地区を除いて14日の早朝に行われる所が多い。写真も日の出前の薄暗い中である。

子供会後援会主催の新しい形の団子焼き

団子は三又で柄の長い枝にさし、セートバレ-の火で焼いて食べる。これを食べると虫歯や病気にかからないなどという。

いろいろな講

恵比須講	1月20日
秋葉講	1月24日
不動講	1月27日
稲荷講	2月の 初午 の日

写真は、恵比須講の掛軸

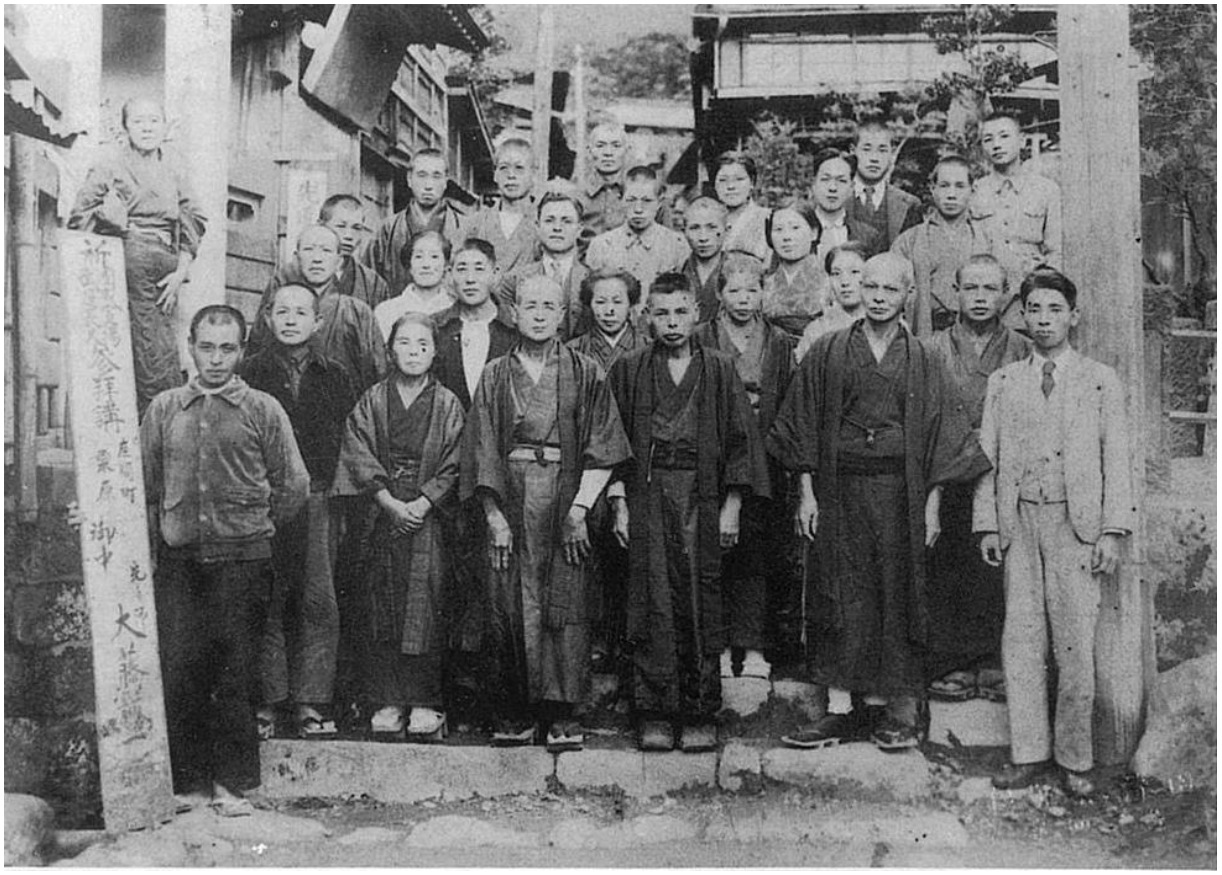
秋葉山献塔

場所は上栗原。昔は当番が常夜燈をともした。

不動講と大山講

この二つの講は名称は異なるが内容的にはほとんど同じのようである。月の27日に講をひらき、不動経をあげてお日待をした。大山講はこれを実際に大山の不動尊へ参詣して御 師の家で行う講である。

写真は中宿の不動講。公民館を兼ねている不動尊堂で毎月行われている。主婦の出席が多い。



大山講

大山の御師の家の前で。栗原芹沢地区の大山講。昭和13年。

春の行事

稲荷祠と幟

入谷の長宿にある座間の四方固の稲荷祠の一つ。祠には正一位稲荷大明神の幟が立てられている。

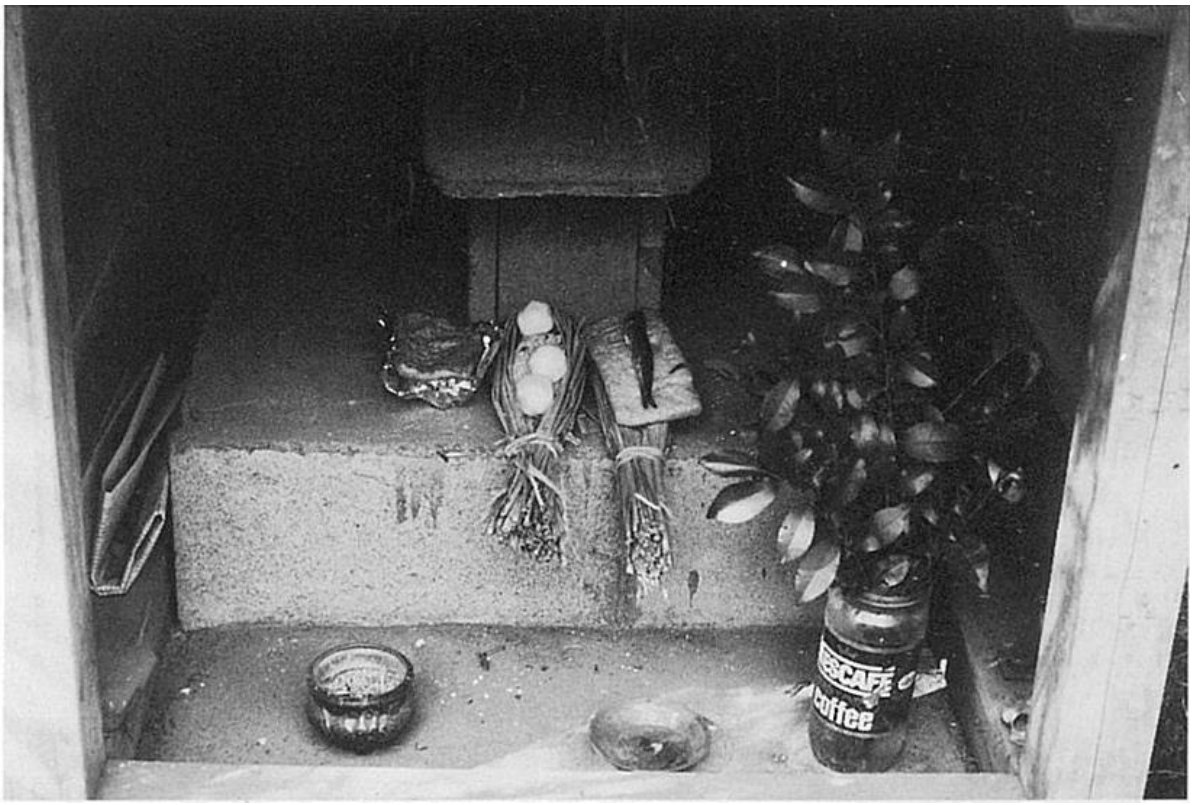
宿の幟

上栗原の同族の稲荷講の宿の幟。

お供えもの

　強飯か小豆飯を藁苞に盛り、油揚げ、イワシ、メザシなどを添えて上げる。

　写真は座間のお供え物。



お供えもの

上栗原。

稲荷講

現在も相当多くの地域で行われている講で、初午の日に行われる。その日の朝、稲荷祠にお供え物を上げ、そのあと写真のように宿となっている講員の家で飲食をしながら楽しむ。

昭和51年。

節分

「豆まき」は神社やお寺でも行われる。
写真は星谷寺で行われる追儺会の記念。
昭和26年。

ひな祭り

　3月3日。　女の節句ともいい、お雛様を飾って祝う。長女が初節句の家では、嫁の家から内裏雛が贈られる。

子供会でのひな祭り

　河原宿では子供たちが主催するひな祭りが行われていた。昭和30年ごろ。2葉とも。

年季明け

3月2日、この日、奉公人は勤めを終えて自宅へ帰った。写真は子守り奉公の少女。

昭和初期。

共同作業

　各戸から一名ずつ人がでて周囲の道を修理し堀ざらえをした。写真は神社の枝おろしの共同作業でのお茶のひととき。

　昭和30年ごろ。

花祭り

　4月8日、花で囲った釈迦像に甘茶をかけてその誕生日を祝う。

お花見

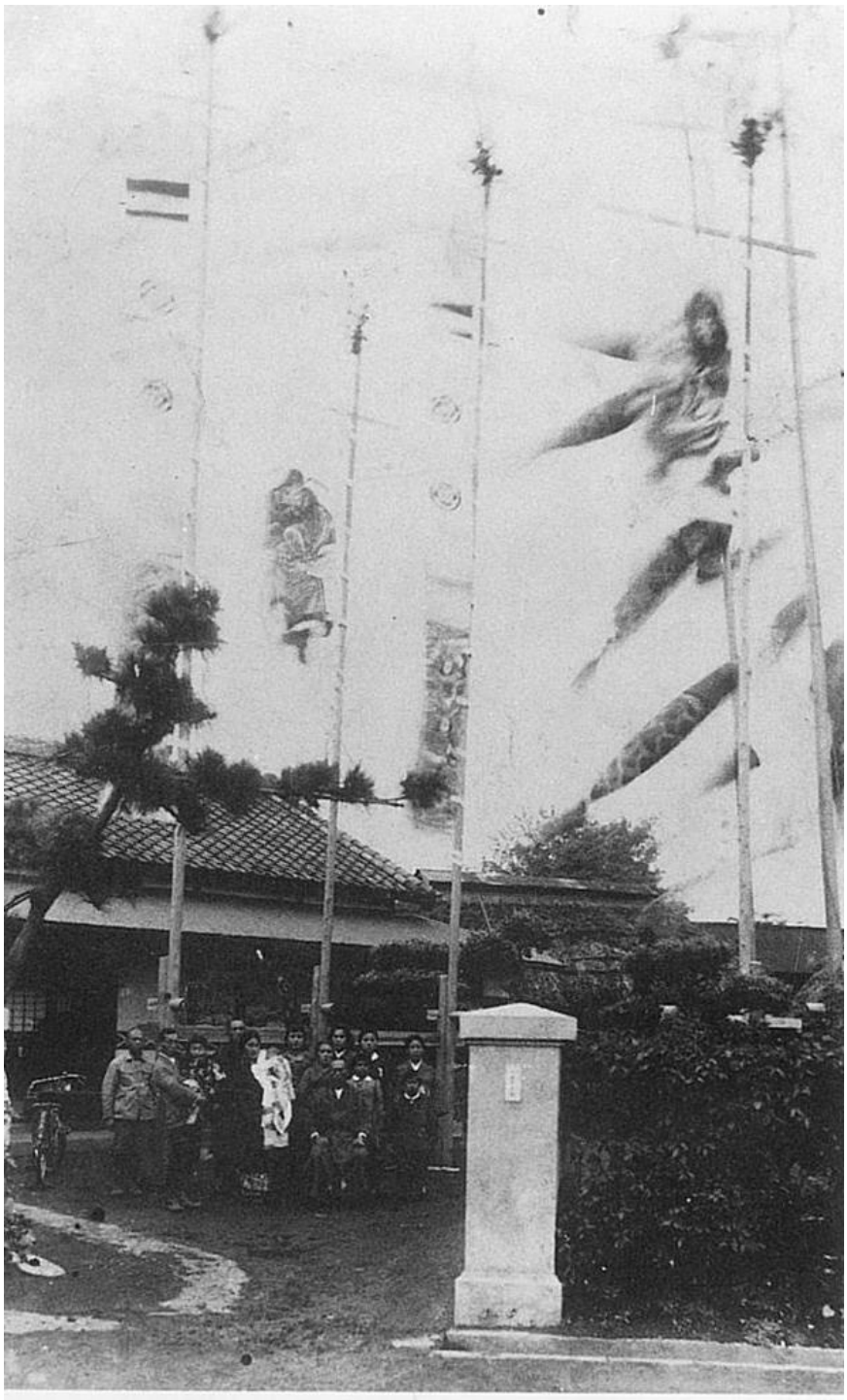
　季節もよし、春の農作業まではそれほど忙しくもない時期でもあり、人々は美しい桜の下で楽しい1日を過ごす。

　写真は東原の畑灌桜のお花見風景。

端午の節句

5月5日、この日男の子のいる家では、幟(鯉幟)を立て、五月人形を飾って祝う。

また、昔から写真のような字凧を揚げる風習も盛んだった。



幟と鯉幟

現在は鯉幟が一般的だが、昔は幟だけだった。

初節句の祝の席

5日の日には、赤飯や煮しめ、柏もちをこしらえて祝う。

また、幟などを送ってくれた家にはお返しをする。昭和30年ごろ。

相模の大凧

大凧揚げは、200年の伝統をもつ座間最大の行事である。

　その起源は、長男の誕生を祝って揚げる祝凧が、いつしか村の男児(特に長男)の前途を祝福して、村の青年たちの協力により大凧を作り、揚げるようになったといわれている。

　写真は座間上宿の大凧揚げ。
場所は相武台下駅東側。昭和26年。

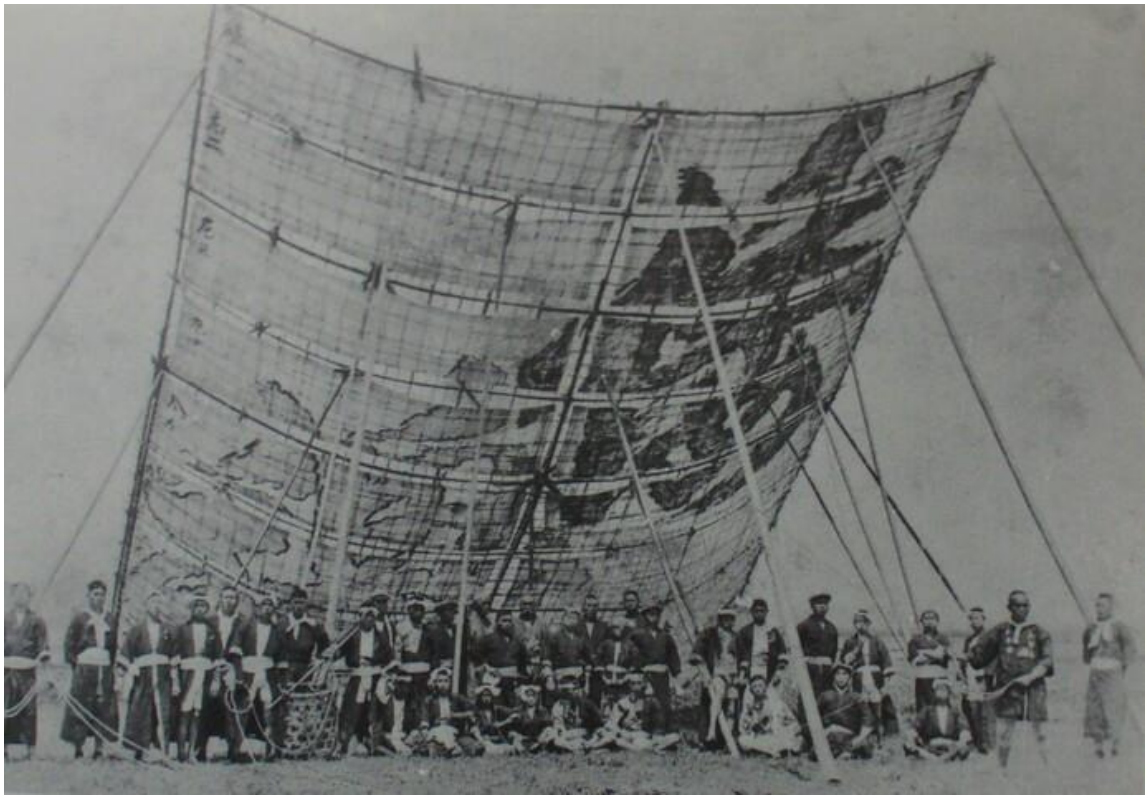
戦前の凧揚げ風景

　昭和10年ごろと思われる。戦前で大凧を揚げている写真は珍しい。座間中宿の大凧。

凧揚げの服装

　昔は紺色無地の長ジュバンを着た。写真は戦後まもなくのものか。

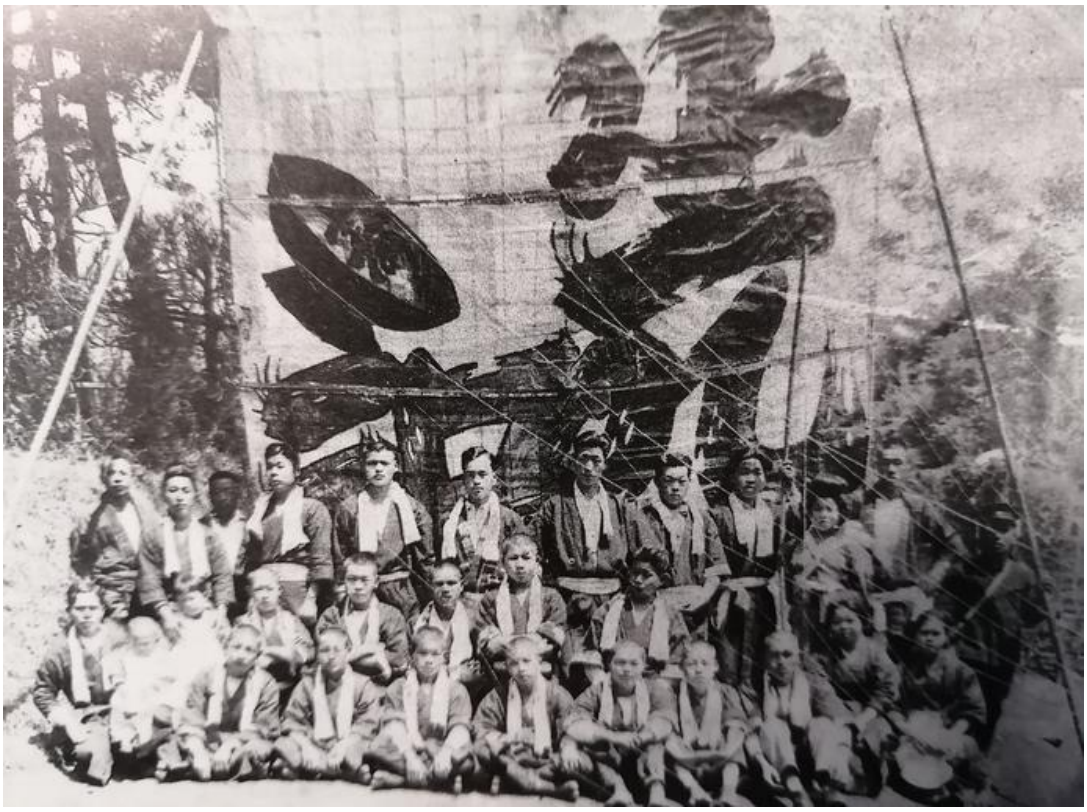
大凧記念



　各地区には、凧揚げの記念の写真が残されている。大凧は字凧であり、その文字には時代を反映しているものもある。

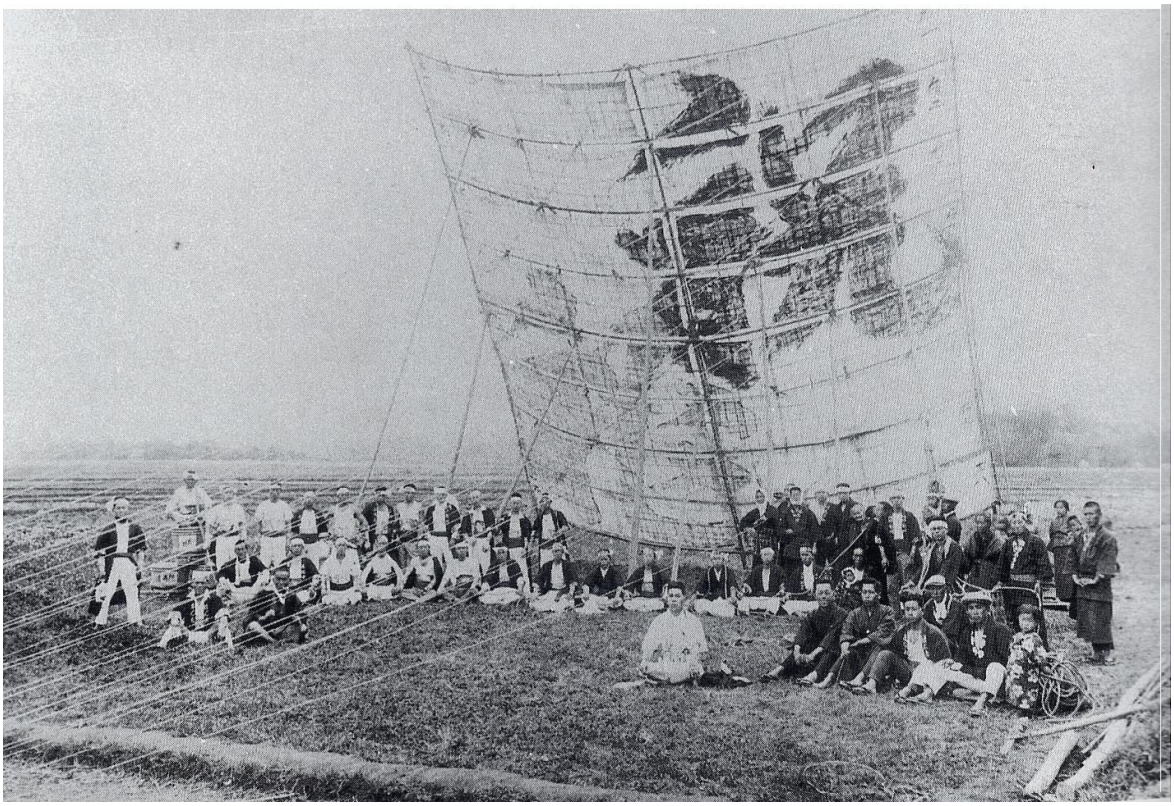
大正4年の大凧

　新田宿の記念。大凧の写真では発見されている中で一番古い。



栗原の大凧

栗原大尽の初節句祝。大正の末期。

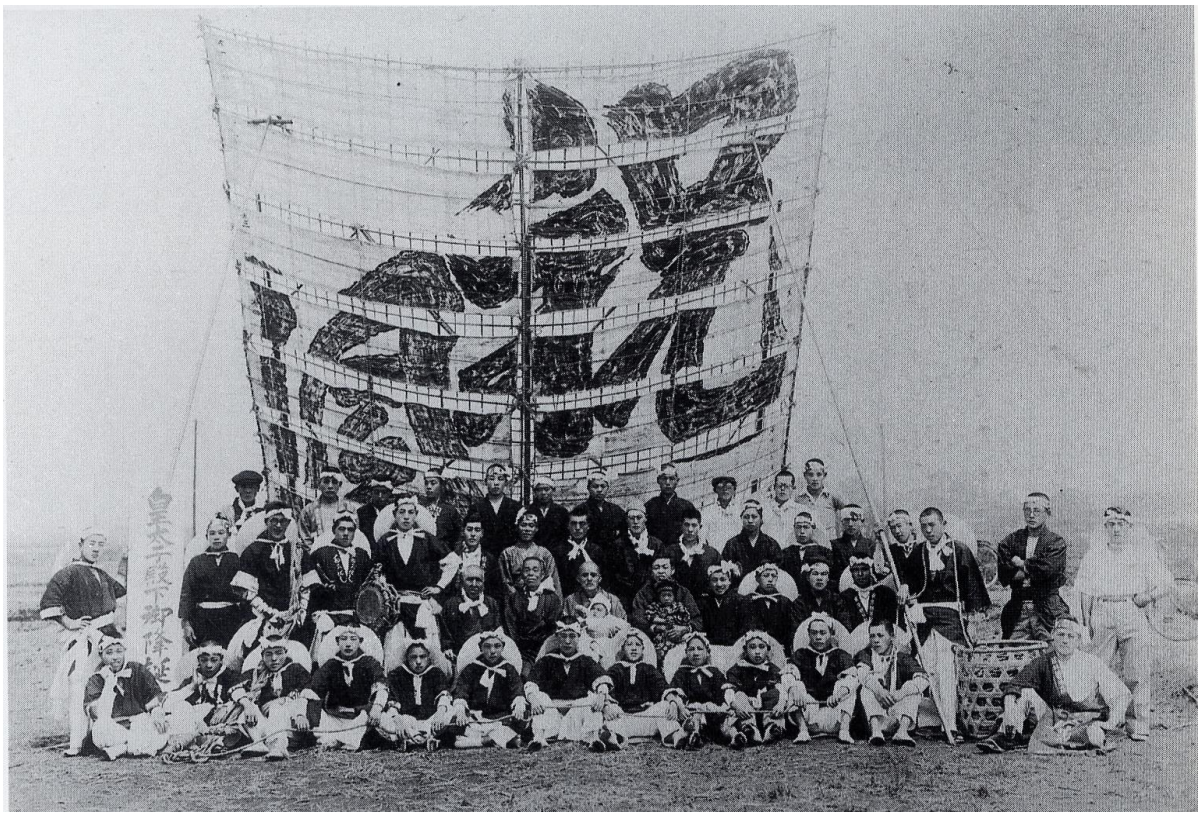


御大典記念の大凧

　昭和3年、天皇の御大典を祝賀して、新田宿で揚げた大凧。

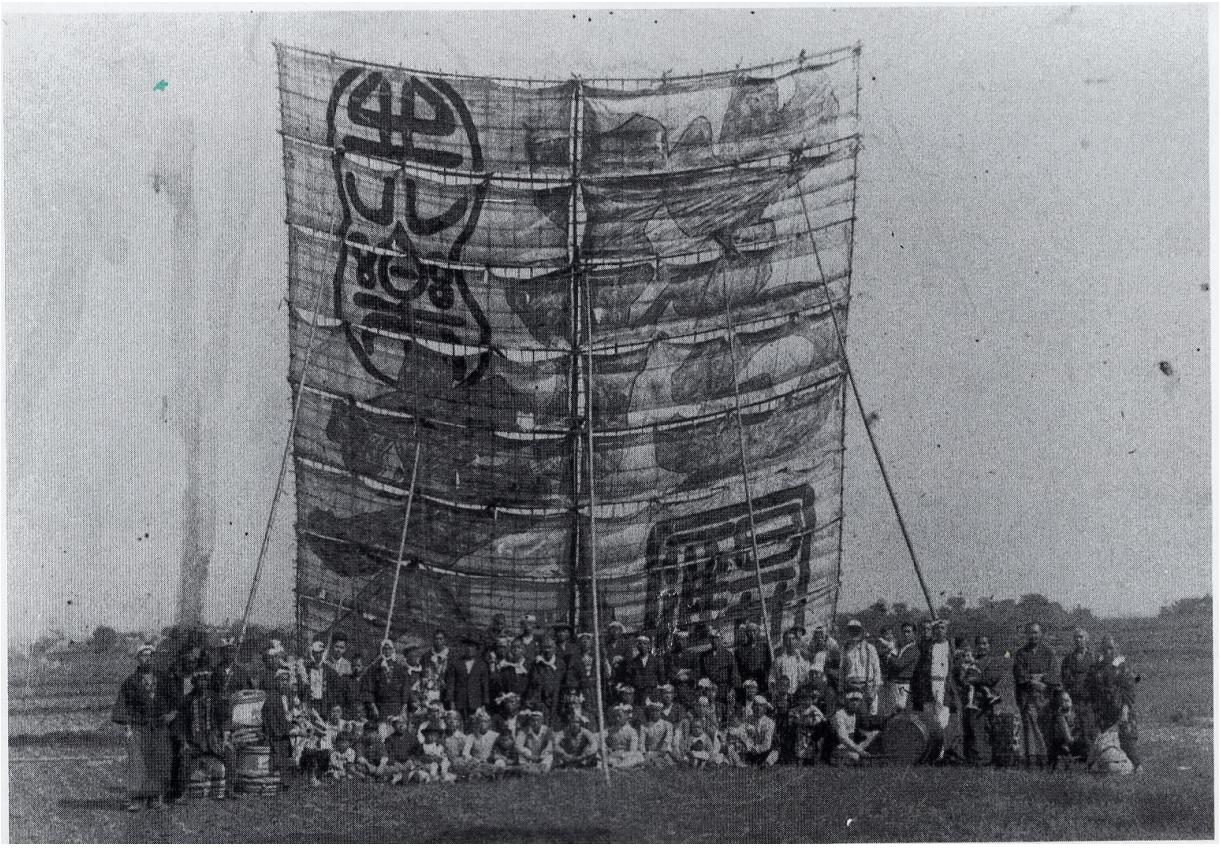
「待喜」

　昭和4年、座間上宿。世はまさに不景気の時代。喜びが待たれる。



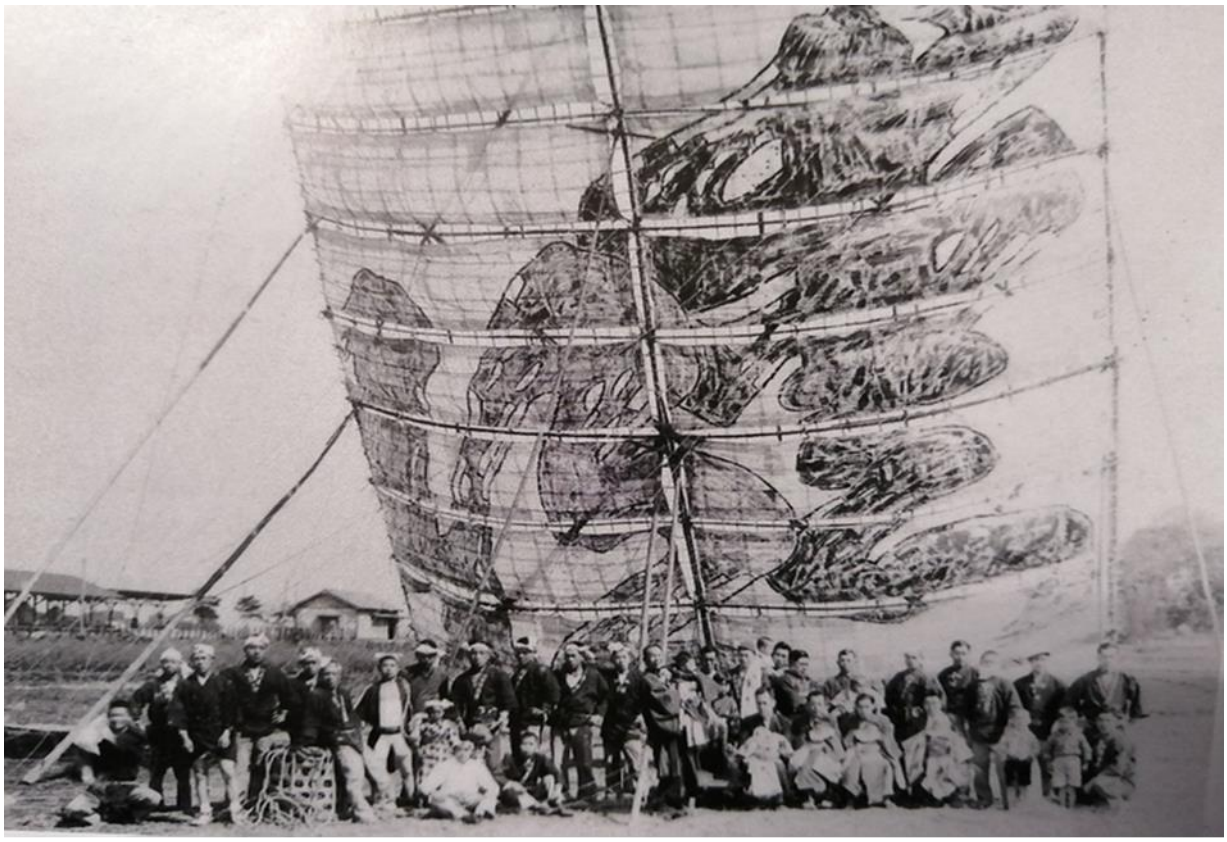
皇太子御降誕記念

昭和9年の中宿の大凧は皇太子の誕生を祝って揚げられた。



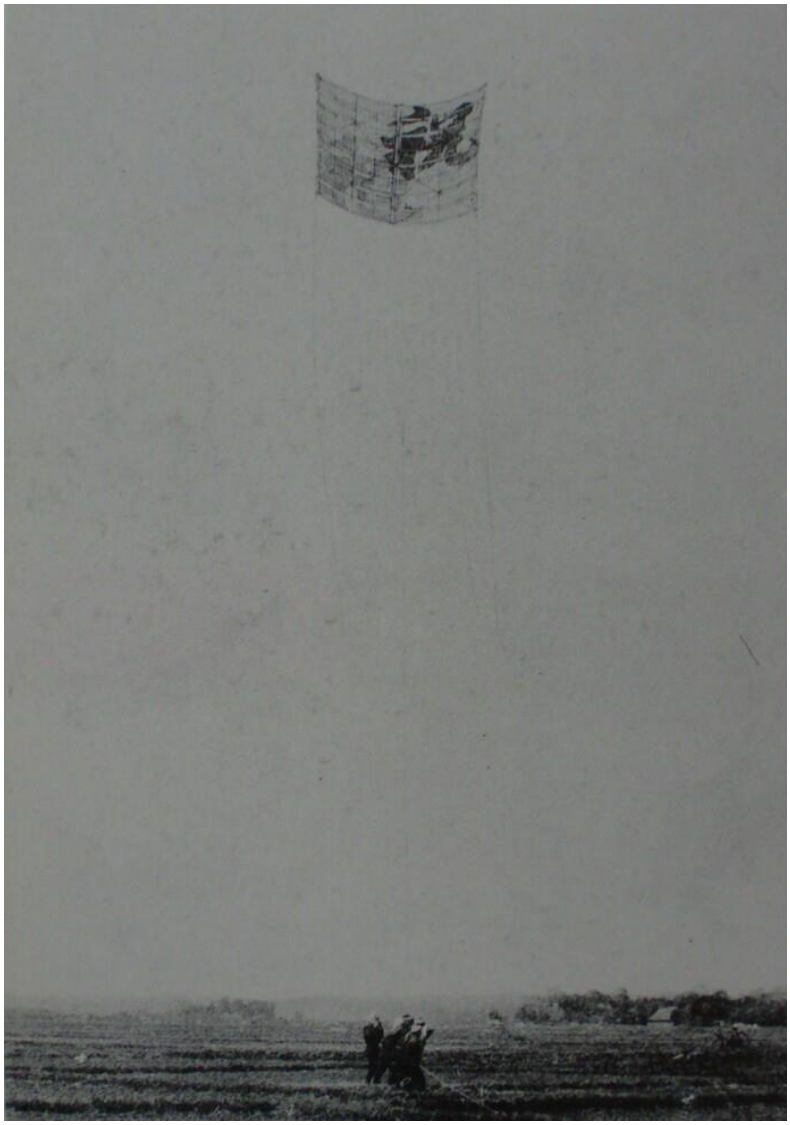
「瑞光」

昭和11年、四ッ谷の大凧。



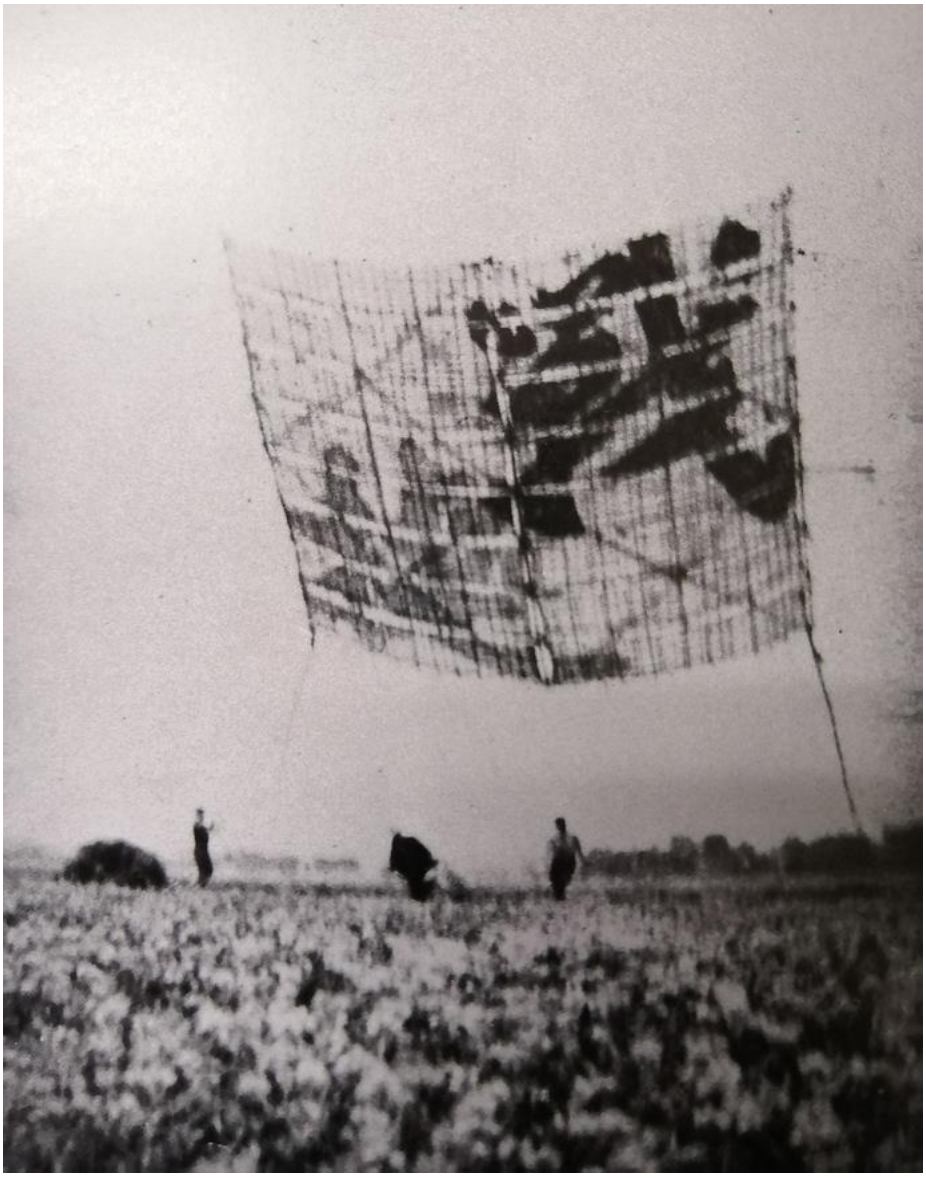
「登流」

　上宿の大凧。左に相武台下の駅舎が見える。昭和初期。



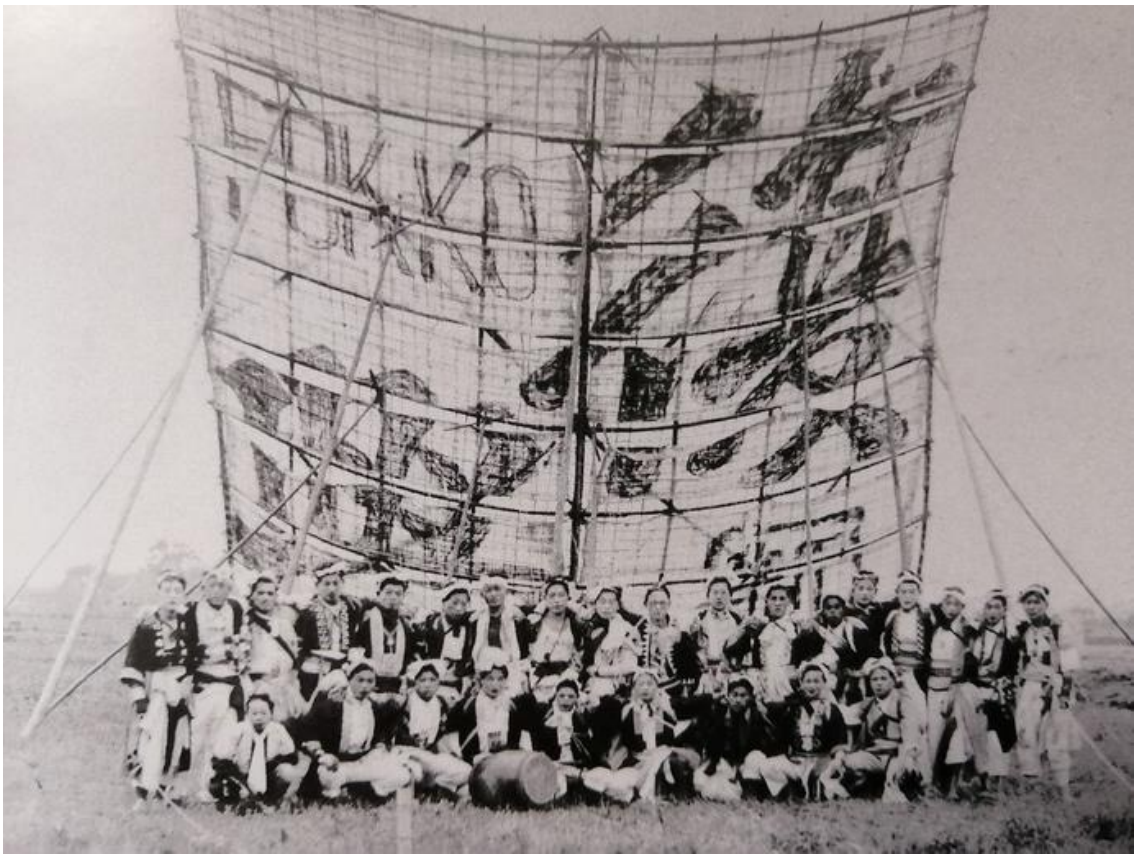
大空に高く揚がった大凧

　右手の森は諏訪神社。左手遠方の森は中河原の集落。昭和3年。



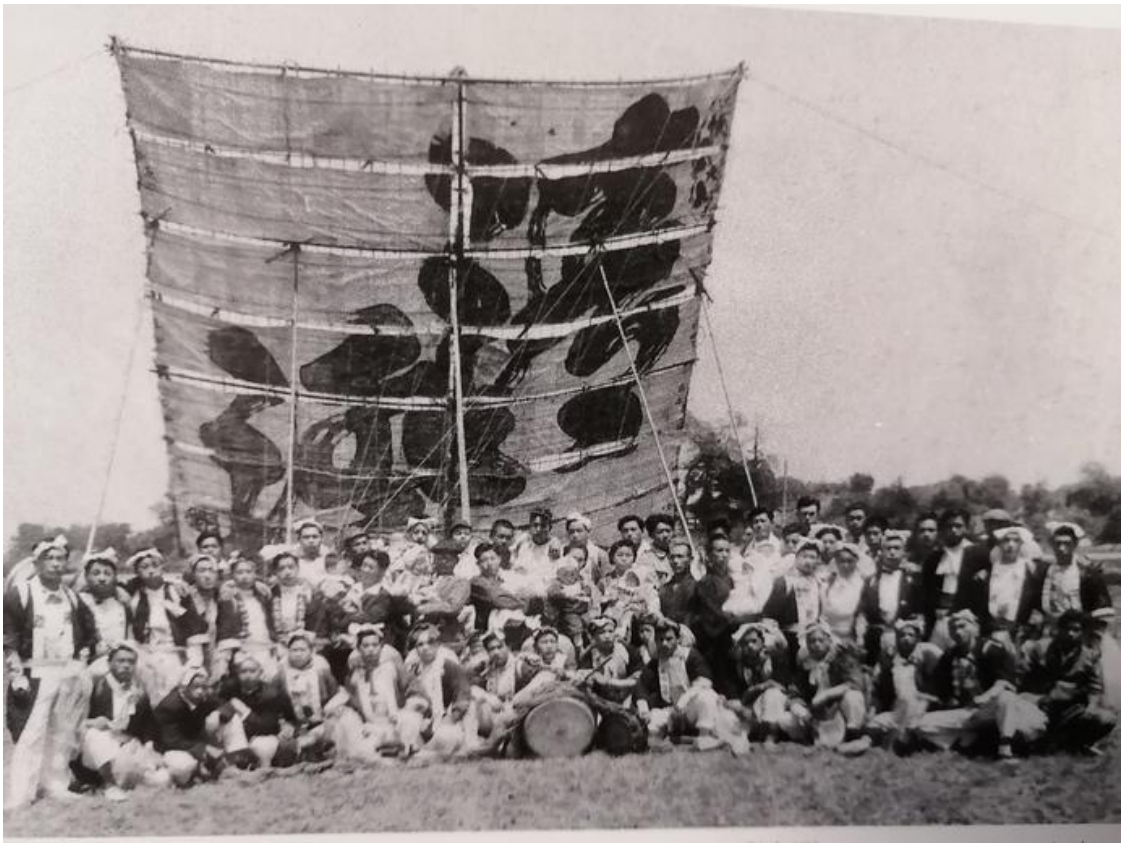
「戦捷」

　昭和15年。戦時色が次第に濃くなって行く。新田宿。



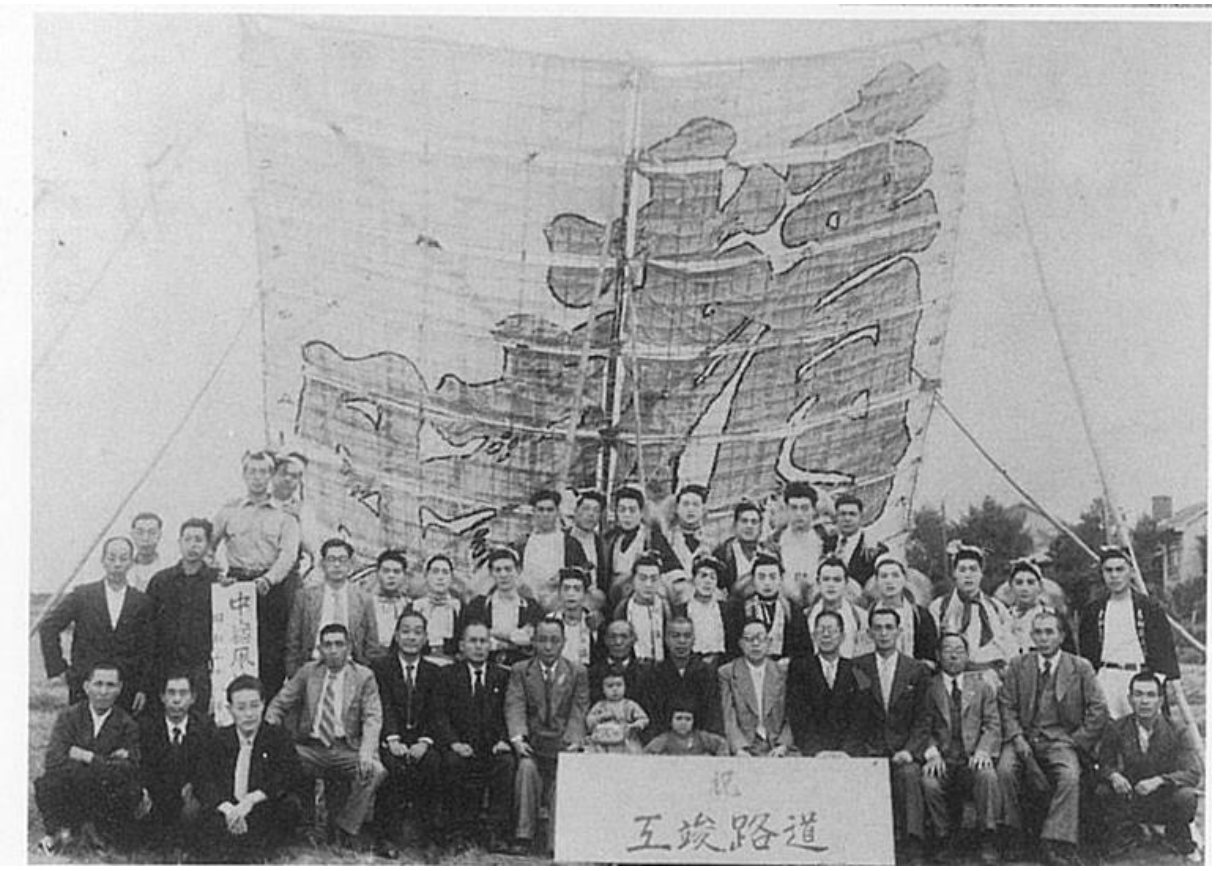
「復興」

戦後初めての大凧。新田宿。昭和21年。



「清澄」

昭和22年、上宿。



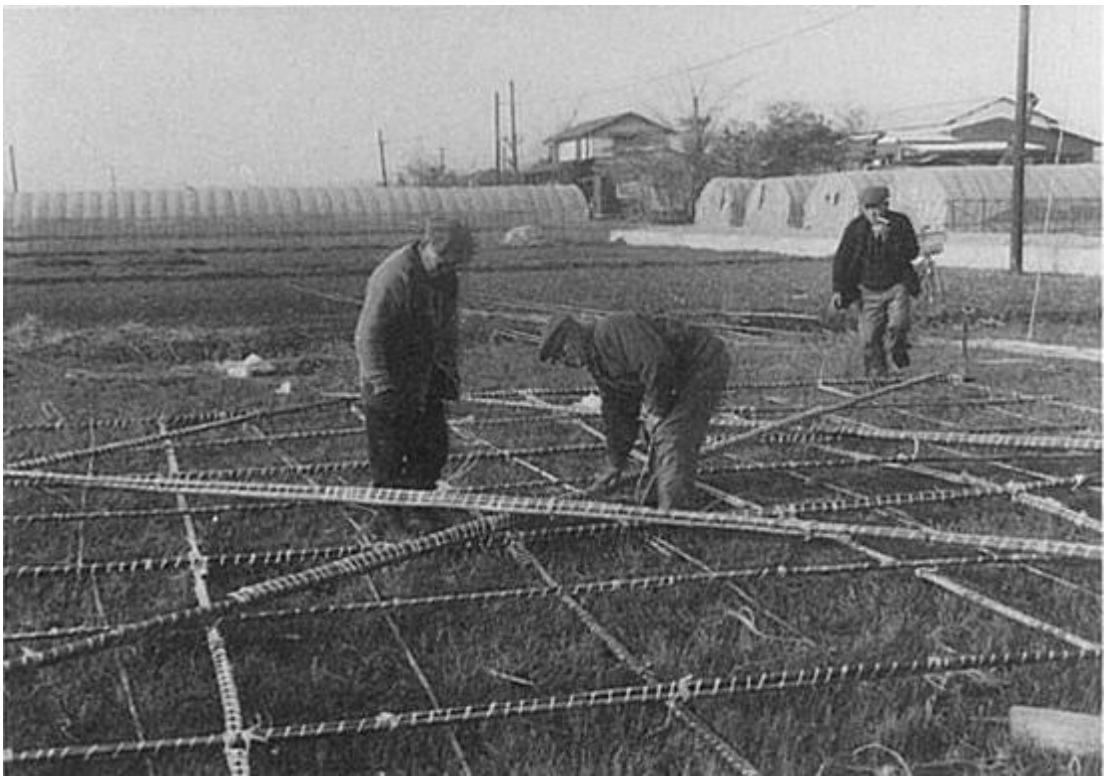
道路竣工記念

　昭和28年、中宿。この年、相模川への道路が完成した。

大凧のできるまで

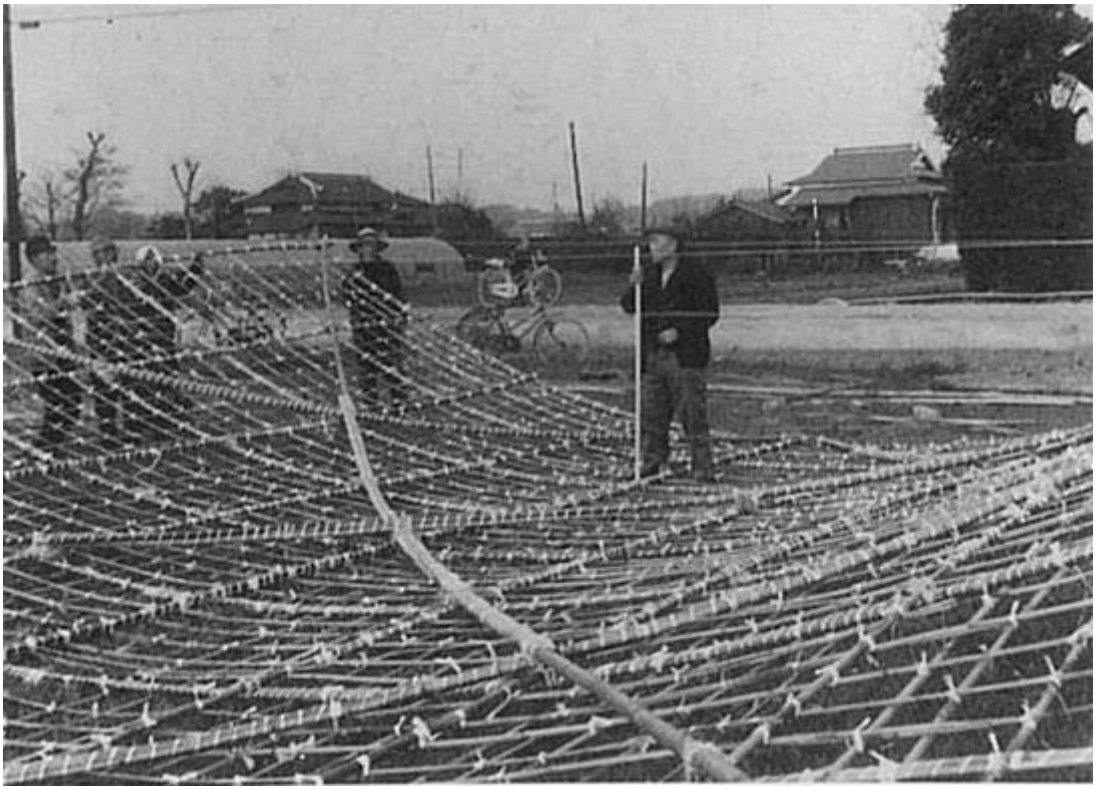
（1）竹さき

（2）枠骨の固定

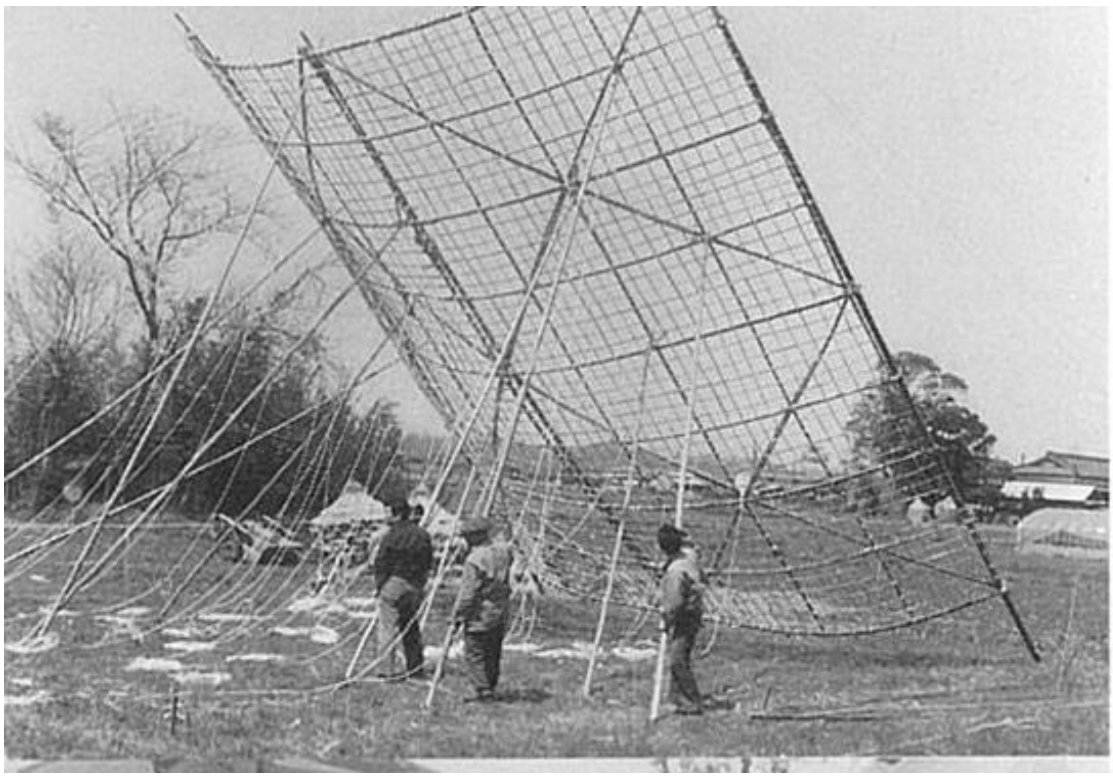


（3）背負い骨の固定

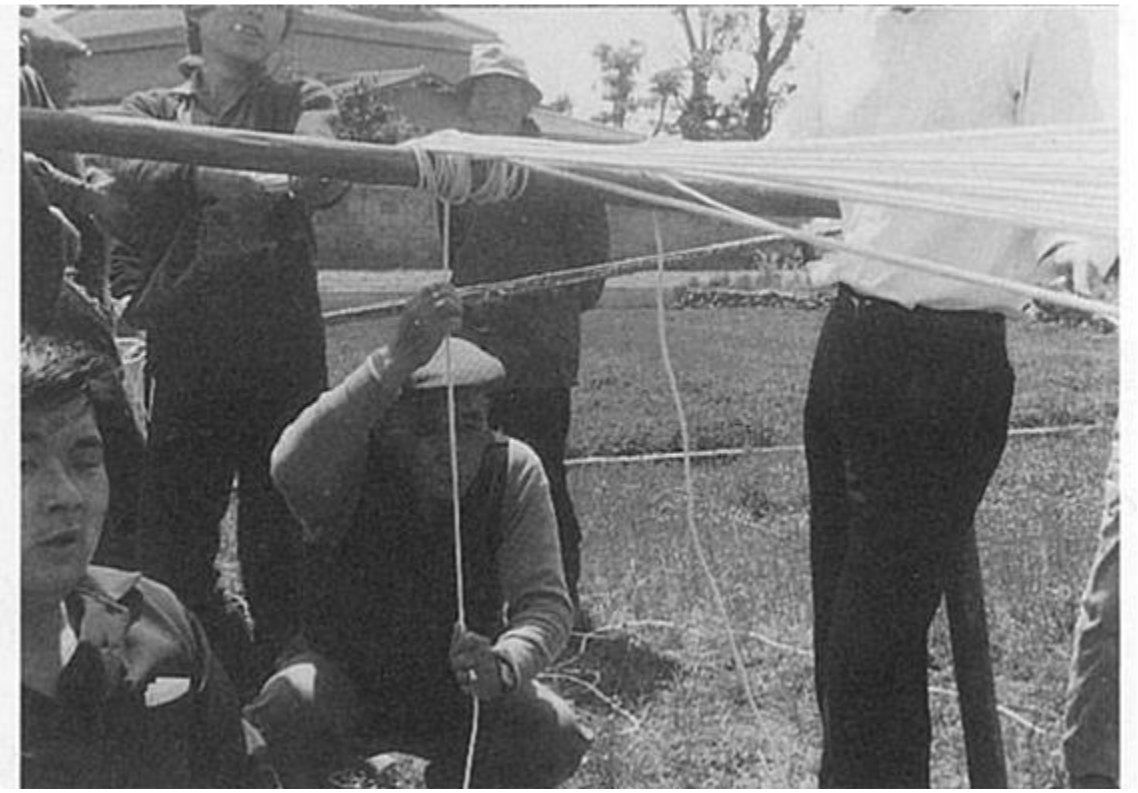
（4）小骨の取り付け



（5）そりの調整



（6）糸目付け



（7）糸目の調整

（8） 糸目の固定

（9）しっぽの調整

（10）文字書き

夏の行事

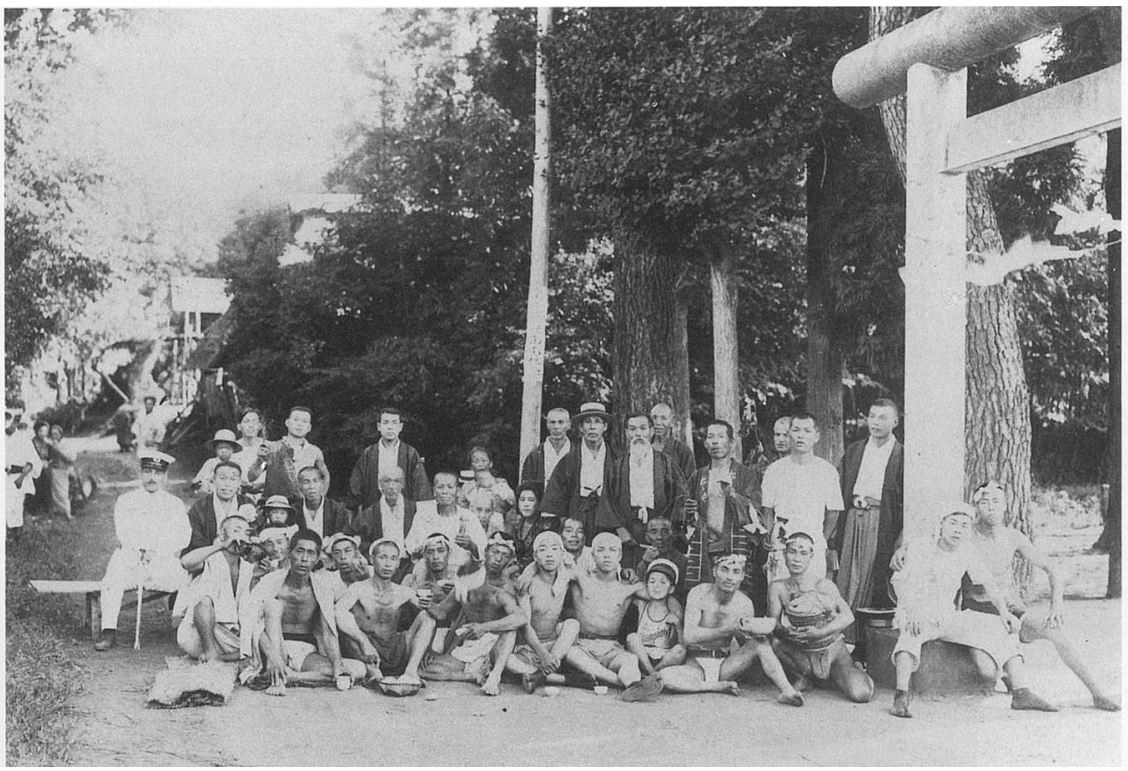
七夕

　戦後になってから行われるようになった行事である。

　写真は昭和30年ごろ宗仲寺境内。

七夕

昭和30年ごろ宗仲寺境内。



雨乞い

　畑作地帯の農家にとって、作物の生育期の水は生活を左右し、日照りが続くと雨乞いが行われた。

　写真は栗原地区の雨乞いの記念。

場所は栗原神社前、大正の末ごろ。

夏祭り

鈴鹿明神を出る御輿

　市内で夏祭りが行われるのは、鈴鹿明神と座間神社である。夏祭りは、神霊が神社を出て神輿で、村中を巡行されるということに重きをおいた祭りで、鈴鹿明神の御輿は伝統がある。（昭和35年）

出輿の神事

昭和35年

御仮屋

　御輿は町内をねり歩き各町ごとに担ぎ手は交替する。その時御神輿が休まれる所が御仮屋である。写真は、星谷寺境内の御仮屋と若衆。

子供御輿

　座間神社の祭礼は8月30日。
写真は下宿町内の子供御輿の記念。
昭和30年ごろ。

お盆

お盆は、先祖の霊を迎えてまつる行事で、昔は正月と並んで大きなまつりとであった。また、市域では月遅れの新暦で行われている。

盆棚

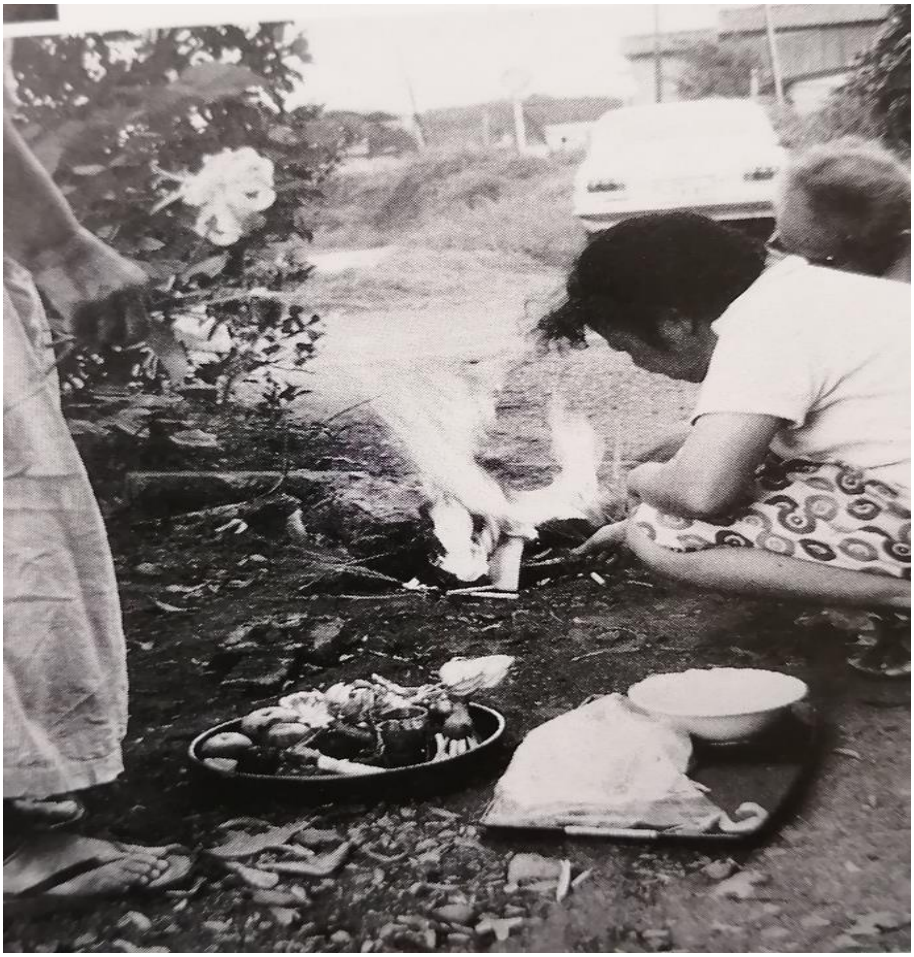
精霊棚ともいい、13日に作る。

写真は昭和51年のもので供え物に変化がみられる。

迎え火焚き

　13日の夕方、先祖の霊を迎えるために行う。写真は墓地での迎え火焚きの様子。

　家へ帰って門口のスナモリの傍でまた迎え火を焚く。



送り火焚き

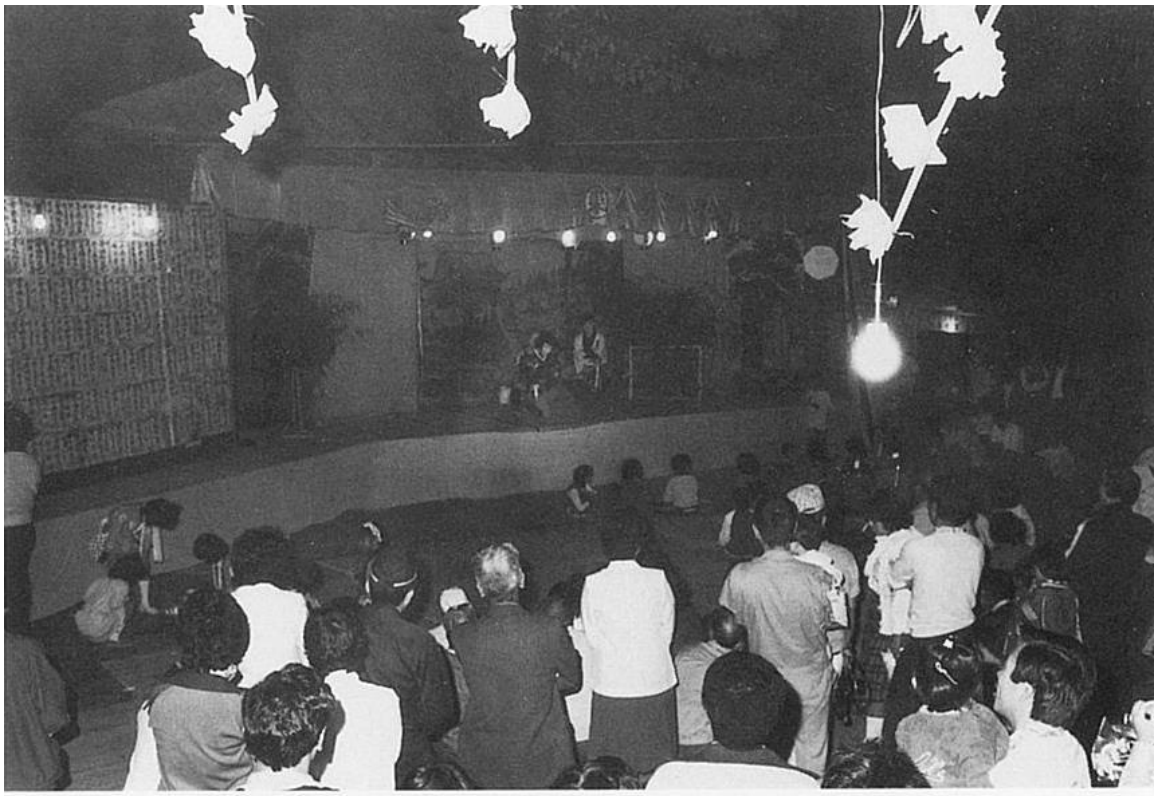
　16日の夜に行われる。盆棚に供えたものは、このあと川へ流す。

盆踊り

　13日から16日にかけて、市内各地区で盛んに行われている。

　写真はひばりが丘での盆踊り大会。

秋冬の行事



新田宿の祭りと芝居

　10月の第1日曜日、昔から祭りには芝居がつきものだった。

お月見のお供え物

　旧歴8月15日、縁先に机を出してお月様に供え物をする。

栗原神社の祭り

　写真は、はやし連。栗原では地区内から5つのはやし連がその技を競い合う。

秋まつり

芹沢のおはやしと、ヒョットコ踊り。

七五三

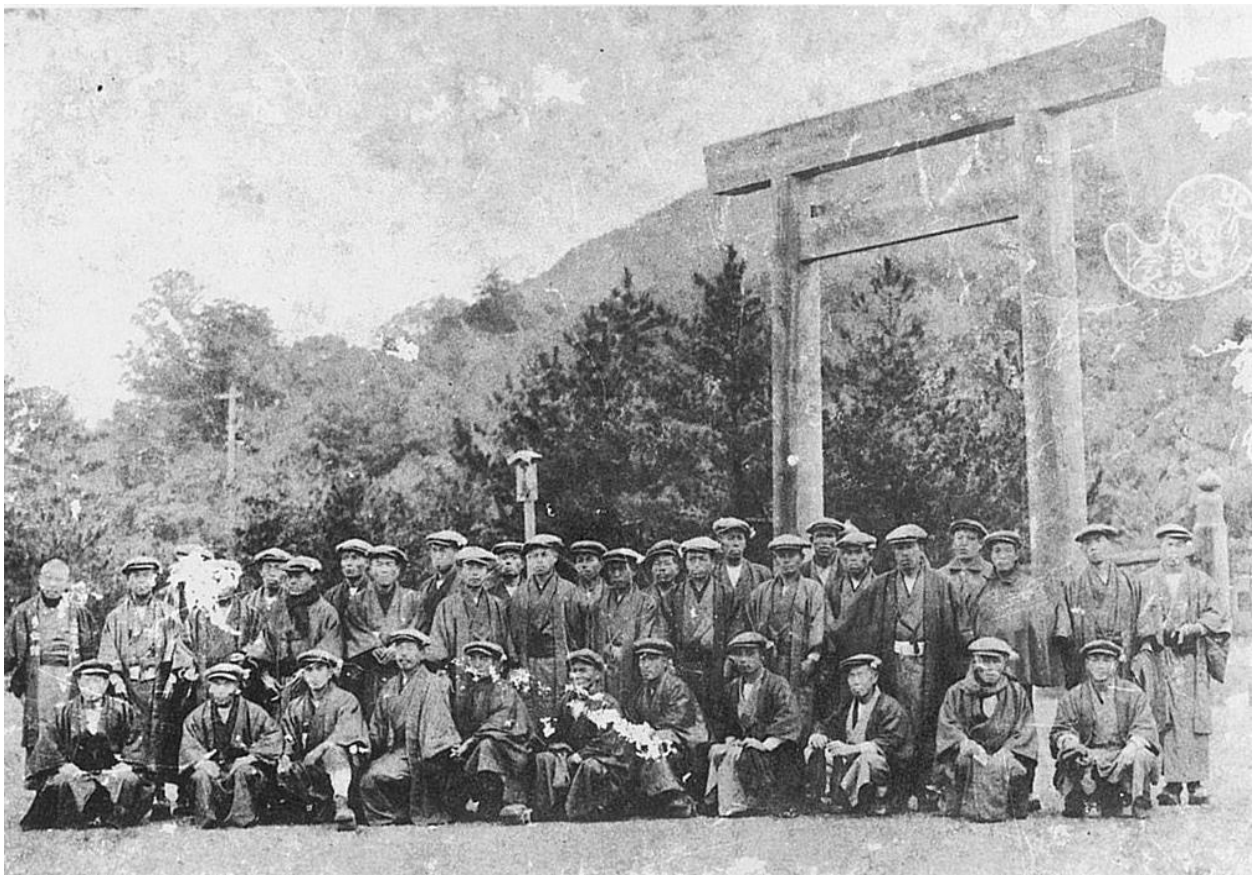
　11月15日。昔は長男・長女の場合だけという家が多かった。この日は、赤飯を炊くか、モチをつき、氏神様に参詣して、その子の健やかな成長を祈った。

伊勢講

　11月15日。もともとは伊勢参宮を目的として費用を積み立て、交替でお参りに行く講で古くから各地域で行われている。

　しかし、近年は食い講となり、14日の夜から集まり飲食を共にして楽しく過ごす。

　写真は、伊勢大々御神楽講中。
座間上宿の講中。参宿所の高千穂館はもうない。
明治45年。



伊勢参宮記念

入谷の皆原講中。大正8年。

正月の準備

もちつき

12月25日ぐらいからつき始めるが、市域では30日の家が多いようだ。

29日は苦に通じるといって避ける。

昭和30年ごろ。

お供え作り

除夜の鐘

大晦日の夜、午前零時になると各寺院では108回の鐘をつく。 108は人間の煩悩の数であり、つくことによりこれを取り払うという。写真は宗仲寺の浄梵式の様子。

人の成長と儀礼

護王姫社の安産祈願の絵馬

産湯

　写真は産婆が生まれたばかりの赤ん坊に、タライで産湯をつかわしているところ。

　昔は家でのお産があたりまえで、トリアゲとか産婆と呼ぶ経験豊富な婦人が出産を助けた。

宮参り

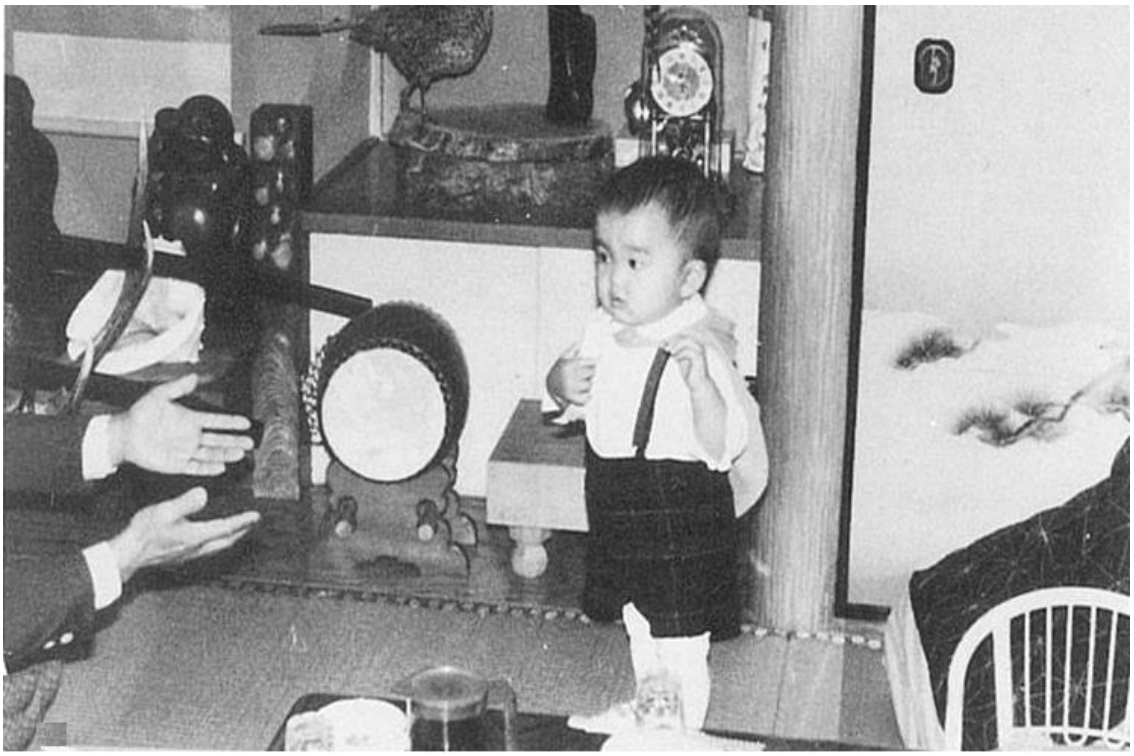
男児は32日目、女児は33日目に村の氏神へお参りする。

これで赤ん坊は氏子となり、また村の一員として認められたことになる。

食い初め

　生後百日目に行われ、お赤飯に尾頭付で祝うのが一般的である。

　またこの時、丈夫な歯が生えるようにと、石をなめさせる。



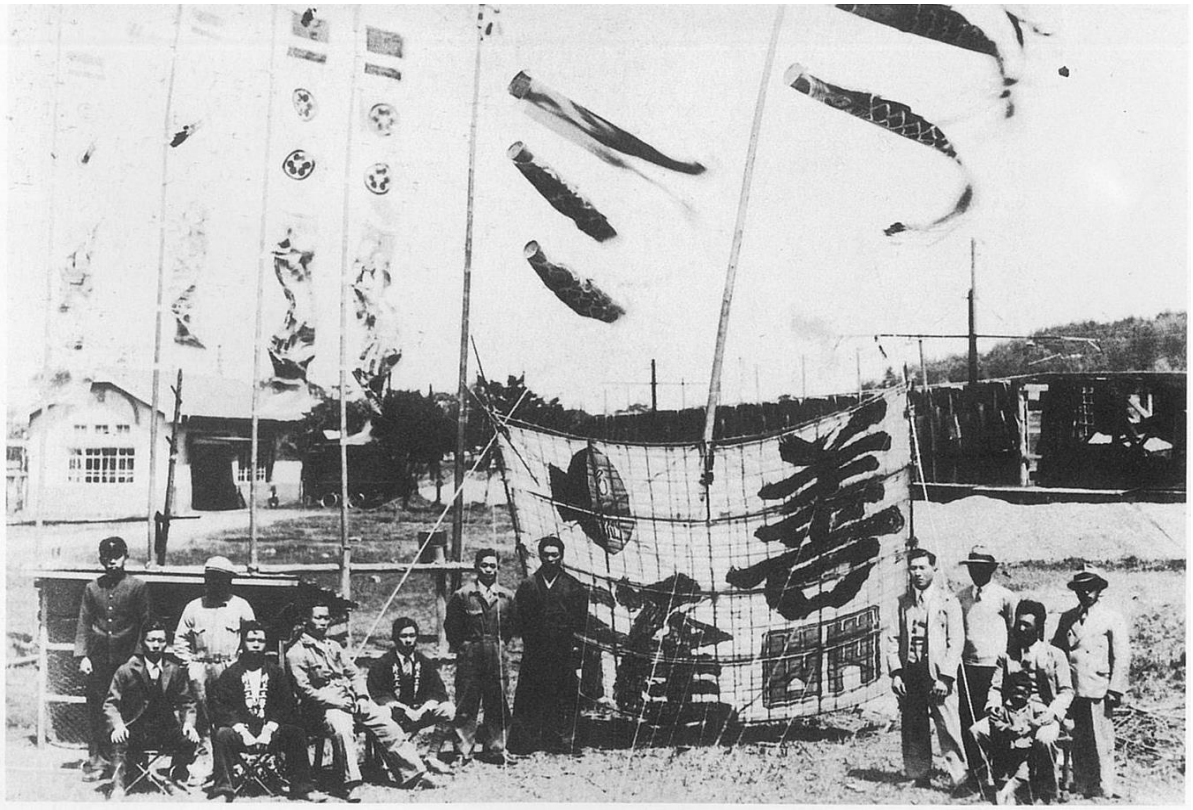
誕生もち

　ブッツワリモチともいい、誕生前に歩いた子供には、一升もちを背負わせる。

女児の初節句記念

三月、五月の節句には、女児には雛人形を男児には幟などを贈るのが習わしである。

(大正13年)

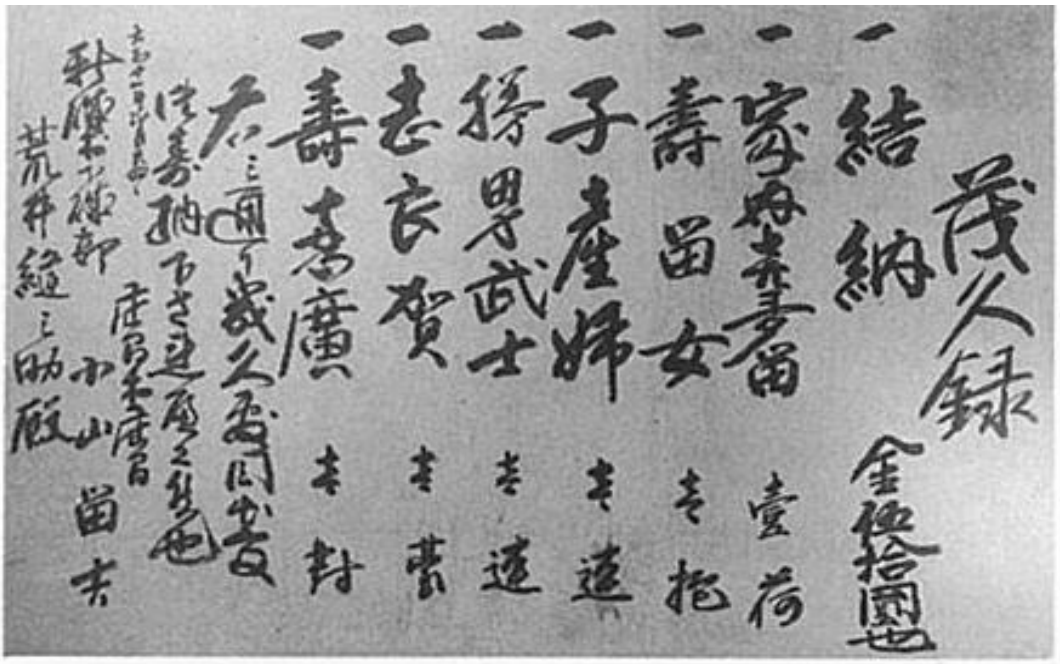


男児の初節句記念

　場所は座間駅前広場。幟は親元から贈られ、上部に婚家の家紋、下部に嫁の実家の家紋を入れる。

　祝凧の字は子供の名前で、大きさは2間はあろう。

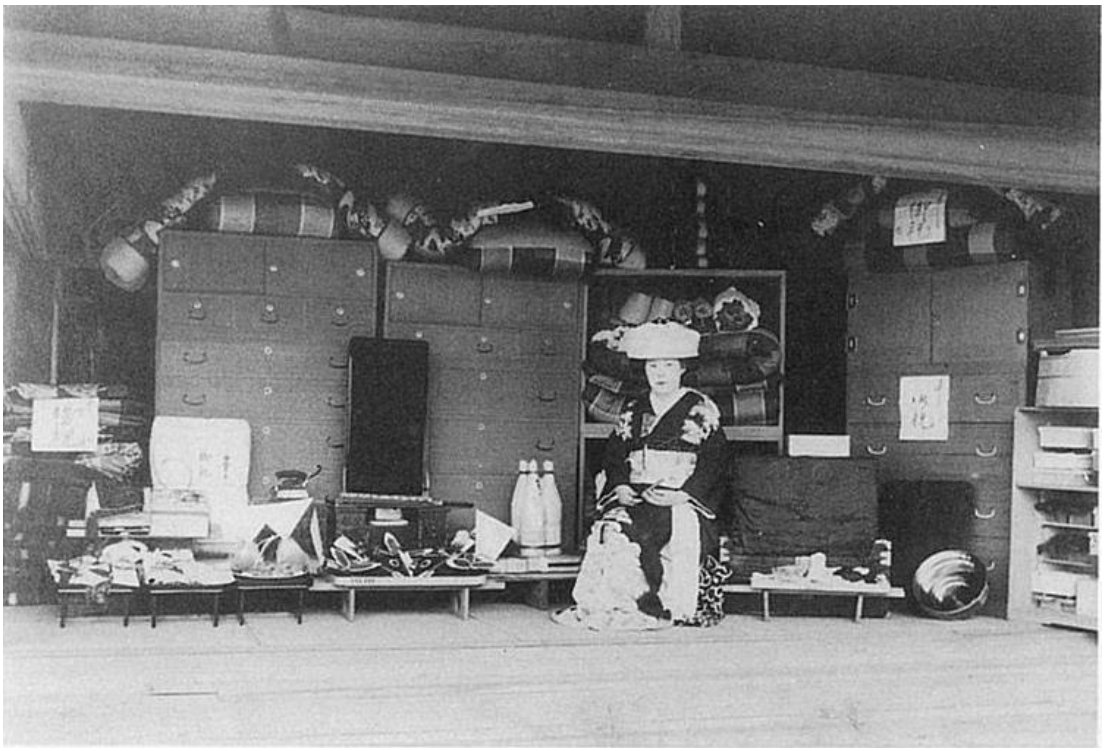
結婚



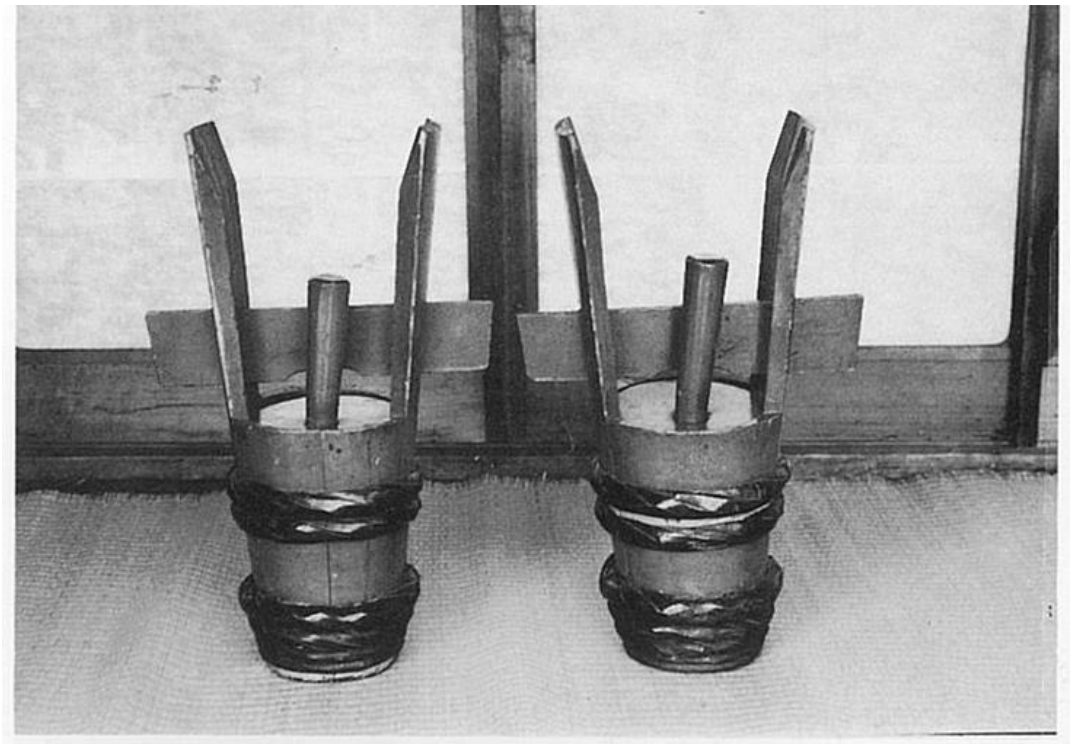
結納の目録

挨拶回り

　花嫁は式の当日、生まれ育った近所の家々に別れの挨拶に行く。



花嫁と嫁入り道具



朱塗りの祝樽

　昔は祝い事には必ずといってよいほど祝樽で酒をもっていった。この辺では角樽ともいう。

松明とぼし

　花嫁の入家式の儀式で、この上を通って家に入る。

結婚式の席次

　左側が婿方、右側が嫁方、正面に新郎新婦、手前にオショウバンと称する進行係が座る。正面に新郎新婦がくるのは新しい形で、戦後の風習である。

三々九度の盃

　市域ではこれをアイサカズキと呼び、入家式のとき松明とぼしをした男蝶、女蝶の子どもがついで盃を重ねさせる。

披露宴たけなわ

　神聖な式が終わると、料理と酒がでてはなやかな祝宴にかわる。

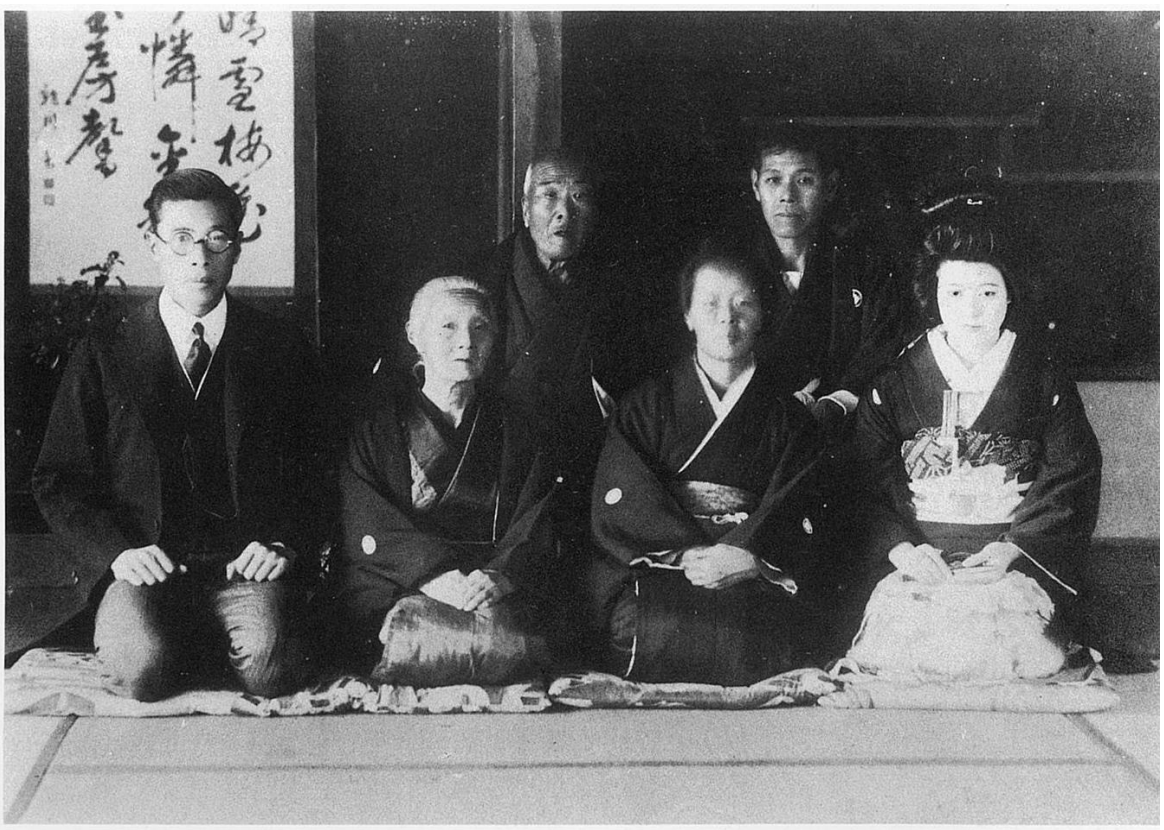
ハナビキと花嫁

　披露宴の最中、あるいはその翌日、花嫁はハナビキと呼ばれる年長の女性に連れられ挨拶に回る。

米寿

88歳の年祝いのことで、年祝いは61の還暦、70の古希、77の喜寿、88の米寿とあり、今は平均寿命がのびて還暦の祝は少なくなっている。

本来は11月15日に祝う。



三夫婦の祝

一家に三組の夫婦ができると行う祝である。たいへん縁起が良いというので、橋の渡り初め式に招かれた。

葬儀

葬儀

出棺

葬式には玄関は使わない。読経、会葬者の焼香が済むと縁側から出棺する。

写真は出棺後、墓地へ向かう直前の光景で、手車式の霊柩車が使われている。

昭和30年ごろ。

野辺送り

　葬列は講中の者を先頭に、旗・花・僧侶・棺・遺族・親戚・一般の参列者と続いている。今は火葬されること、交通の事情などから、このような光景は見られない。

生活のこよみと
人生の儀礼編

完